

2021年
新春号
Vol.31

幸義会だより

岡山東部脳神経外科



浮田院長より新年の挨拶 「やれば できる」

岡山東部脳神経外科病院 院長 浮田 直也



皆様 あけましておめでとうございます。昨年2020年はコロナに始まり、コロナで終わりの一年でした（いまだ全く収束しておりませんが）。本来なら東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、2019ラグビーワールドカップの時のような感動興奮が日本中に溢れていたことでしょう。開催が延期され非常に残念でしたが、コロナに対するワクチンでコロナを制御し、今年こそコロナを克服した最初のすばらしい大会が開催されることを期待しております。引き続き今年も皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

さて表題「やれば できる」。これはティモンディ高岸の名言！・・・ではなく、もともとは米沢藩の財政を立て直し、元アメリカの大統領ジョン・F・ケネディやビル・クリントンが、日本人の政治家の中で一番尊敬している人物である米沢藩主上杉鷹山の「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」が語源です（諸説あります）。つまり「できそうもないどんなことであっても、強い意志を持ってやり通せば必ず実現できる。結果が得られないのは成し遂げようと思っ

て行動しないからだ」という意味です。ちょうど昨今の今頃は中国でコロナが流行りはじめ、まだ当時は日本に入ってきたらいやだなあ・・・SARSやMARSの時のようにすぐに制御できらうと思っておりました。ただ年が明け、1月中旬頃にととう国内で感染者が出現し、引き続きダイヤモンドプリンセス号で大規模なクラスターが発生したりなど、日本でもようやく現実的な問題となりました。しかしそれでも当時はアジアが主体の感染症といった認識が一般的でしたが、3月中旬になるとヨーロッパやアメリカでも爆発的に感染者が急増し、逆にアジア諸国よりも拡大してしまいました。当初よりワクチンは期待されていたものの、これまで出来なかつたんだから、頑張っても無理だろうと、ある程度感染がいきたるまでの我慢、また現在ある効果不詳のお薬で対応するしかないと思っておりました。ところが、やれば できる！ もちろんゼロスタートではなく、SARS、MARSのころより開発研究は進められていたようですが、やはりこの世界中のパンデミック（なかなかWHOはパンデミックを認めませんでした）の状況と世界経済への大打撃であり、一番の経済対策は感染コントロールであるとの認識が一致し莫大な資金が提供

されたことが大きかったと思います。実際にその道の専門家がどの程度ワクチン製造に対する目算があったのかわかりませんが、それでもこれまで進まなかったことがこの一年で大いに伸展したため、やれば できる！と思つたのではと想像します。

我々一般国民側としても、この一年マスクから連日情報を不安も含め提供され、手洗い、マスク、3密回避などの安全対策をほとんどの方が守って来たのではないかと思います。国内の感染者数は現在も増え続けており（12月時点）、またコロナ慣れもあり、2020年の第一波、春先の様々なイベントを自粛した当時と比較すると街中のにぎわいなどは以前とさほど変わらない印象を持ちますが、それでもほとんどのの方がマスクは当たり前にしており、そのうえで欧米の街中の状況をテレビなどで見ると結構マスクつけてない人がたくさん歩いているのを見かけます。マスクに対する印象や効果に対する疑念があり、マスク着用をしないのというのが、やはりここにも欧米との感染者数や死者数の違いが出ている原因だと思います（BCG接種など複数のファクターは予想されています）。我々日本人からするとマスクくらいはしたらいいのにと思いますが、文化や国民性の違いなど難しい問題だと思います。ただ今年にはオリンピック・パラリンピックがあり、多くの選手や観光客などを他国から受け入れなければならず、その際にはやはり日本の慣習に合わせてもらいたいところです。手洗いがいいマスク、それも全員で注意する、そういったことが、おそらく今年ほど皆に浸透したことはなかったと思います。この結果、超過死亡（過去の統計などから予測される死者数を実際の死者数が上回ること「超過死亡」）が例年と変わらずやや減少していたり、インフルエンザ罹患患者数も劇的に減少し、またコロナ感染においては、呼吸器系疾患を有する人で重症化しやすいこと指摘されており、コロナ感染の流行当初、喘息の入院患者数が増加する可能性が危惧されていましたが、実際は、国内における喘息入院患者数が例年よりも大きく減少していたりなど、コロナ禍での数少ない良い面の一つでしょう。ワクチン接種が重要かもしれませんが、もっと基本的な手洗いやうがい、マスク、3密回避、そしてそれらを皆が確実に順守して行動することなどがやはり大事なことだと思います。「やれば できる」ティモンディ高岸の言葉を胸に今年も皆で頑張っていきましょう！

PCR検査できます。

この度、当院（岡山東部脳神経外科病院・東備クリニック）では患者様が安心して診療を受けられるよう、発熱や咳などの症状がある患者様には院内感染防止の観点から屋外に設置した発熱外来専用の建物で診察することになりました。新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者様については判断が必要な場合PCR検査を実施します。発熱外来の診療・検査対応時間帯は下記の通りとなっています。岡山県庁のホームページにも記載されていますのでご確認ください。

【岡山東部脳神経外科病院】

月～金曜日 9:00～12:00 14:00～18:00
土曜日 9:00～12:00

【東備クリニック】

月～金曜日 12:30～14:30
土曜日 12:00～14:00

必ず事前に電話してご来院ください。ご来院されたら建物内に入らず、駐車場に居られる事を電話などで連絡をして車で待機して下さい。車での来院でない患者様は別室で待機していただきます。医師や看護師がこちらから車や、別室にお伺いし案内・問診・診察を行います。何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

看護師の制服が変わりました。

11月より看護師のユニフォームを変更しました。これまではピンクを基調とした優しいイメージの白衣でした。今回は白と紺を基調とした白衣です。

白は定番色ですが清潔感を与える色であり、また汚れが付きにくい目立ちやすい色です。衛生管理が重要な医療施設とは非常に相性がよい色です。ただ上下とも白色だと患者様が血圧測定時に緊張し、血圧を高くすることがあります。

そこで緊張を和らげる効果のある紺色を取り入れました。

紺色のスクラブは2008年の医療ドラマ「コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命」をきっかけに、医療業界で人気が高まった白衣です。すらすら見える引き締め効果もあるので当院の看護師さん達をより美人に感じられると思います！



研修医紹介

研修医 穴戸 泰紀



2020年12月に1か月間、地域研修でお世話になりました、初期研修医2年目の穴戸泰紀と申します。私は東京にある東邦大学医学部を卒業後、横浜市にあるけいゆう病院で初期研修を2年間行っており、地域研修プログラムの一環で今回、岡山東部脳神経外科病院で研修をさせていただきました。私は生まれも育ちも横浜であり、正直岡山には全く馴染みがありませんでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、なにかと慌ただしく、不安に包まれた2020年の年の瀬をどこのんびり過ごせるのではないかと楽しみにしておりました。

私が普段勤務しているけいゆう病院には脳神経外科はなく、頭部外傷や脳血管疾患の経験は無いに等しいため、これらの疾患の対応・加療に携われたことは非常に貴重な経験となりました。脳外科手術も間近で見学させていただき、脳外科領域の繊細さや魅力を存分に感じる事ができました。

私は、来年より消化器内科を専攻しますが、内科領域でも脳神経疾患に出会う機会は当然あると思いますので、今回の経験を下に今後も精進していきたいと思っています。

この1か月間、先生方ははじめ、看護師さん、院内スタッフの皆様には大変親切にしてください、非常にお世話になりました。医療における経験もさることながら、見知らぬ地で共に医療に携わるものとして様々な方とコミュニケーションを取る事が地域研修の醍醐味なのではないかと今私

は思います。そのひとつが私の財産となりました。

最後になりますが、短い間でしたが、皆様のおかげでも充実した時間を過ごすことができました。心より感謝を申し上げます。これから先もけいゆう病院からたくさんさんの初期研修医が訪れることと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

研修医 薬師川直人



神奈川県あけいゆう病院より参りました研修医の薬師川直人と申します。1ヶ月間、岡山東部脳神経外科病院で研修させていただきました。

私の研修病院には脳神経外科の常勤医がおらず、普段脳外科の患者さんを診療する機会は多くありません。救急診療においても、脳外科症例は受け入れることができません、私はこれまで歯がゆい思いをしてきました。しかし今回、地域の脳外科診療を担うこの病院で研修したことで、脳卒中や頭部外傷といった多くの脳外科症例に携わり、経験を積むことができました。

余談ですが、私は歴史が好きなので、休日には県内の史跡や名所にも足を運んでみました。「鳥城」の別名を持ち、壮麗な天守が美しい岡山城や、雲海の上にそびえる備前松山城など。写真では何度も見たことがありますでしたが、実際に目にした時の迫力には圧倒されました。

滞在中は、「晴れの国」の異名にも違わず天候に恵まれ、心地よく過ごすことができました。今回の研修にあたっては、指導医の先生方のみならず、多くの方々に手助けを頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

当院の急性期脳梗塞(脳塞栓症)の治療

脳梗塞とは

脳梗塞は脳血管に血栓（血が固まった物）が詰まり、その先にある脳組織が壊死してしまう病気です。動脈が詰まると、脳の神経は時間が経てば経つほどにどんどん傷んでしまい、ついには神経細胞が壊死してしまいます。また時間が経つにつれ、壊死の範囲は広がっていきます。再生は困難なため、一旦脳梗塞を起こすと重大な後遺症が残ったり、生命に関わることもある恐ろしい病気です。

①血栓溶解療法（t-PA療法）

血栓溶解療法とは、脳血管に詰まった血栓を溶かす薬で、詰まった血管を短時間のうちに再開通することで脳梗塞から救うことのできる治療法です。

ですが、全ての患者様がこの治療を受けられるわけではなく、発症4.5時間以内、既往歴、血液検査などの前提条件を満たす必要があります。

また、治療を行っても血栓が溶けずに脳梗塞になってしまう患者さんもいます。しかし、後遺症が軽くすんだり、後遺症なく退院できる患者様もいます。

②血栓回収療法

脚の付け根の血管から頭部の脳梗塞（脳塞栓症）を引き起こしている病変部までカテーテルを通し、血管を塞いでいる血栓を直接取り除き脳血管を再開通させる治療法です。

先の血栓溶解療法によって症状の改善が認められない場合や、治療の適応外の症例に対して行われます。脳梗塞の血管内治療は、発症後8時間以内の患者さんが対象となります。

①と②の治療法はともに発症から早い段階での治療開始が重要です。

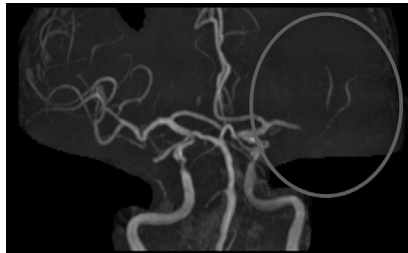
平成29年4月より、当時岡山県笠岡市の村上脳神経外科病院の副院長であった寺井先生に当院の顧問医師になっていただき、急性期の脳梗塞患者さまに血栓回収療法を行える体制ができました。しかし、遠方の病院から連絡を受けてからの移動でのタイムロスや常勤病院の手術中で来られないなど、迅速な対応ができないという問題がありました。

令和1年7月より当院のIVRセンター長として常勤医師となり、これらの問題が改善し、手術件数も確実にあがり、脳梗塞からより多くの患者様を救えるようになりました。

また、頭部を開頭せず患者への負担が少ない脳動脈瘤のコイル塞栓術も得意としています。

今後も地域のみなさまの期待に応えられるよう頑張っていこうと思います。

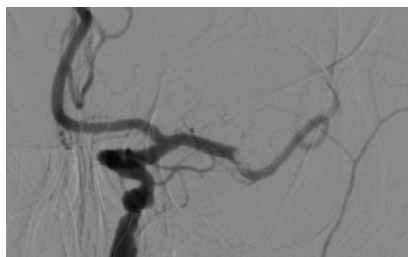
	合計	令和2年 (9月末まで)	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
経皮的脳血栓回収術	18	9	4	4		1



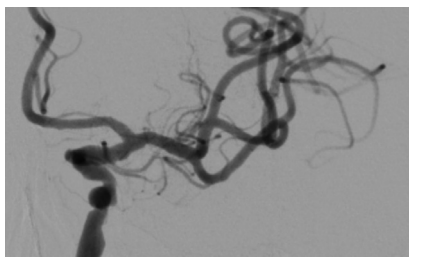
緊急搬送時



血栓回収療法後



緊急搬送時



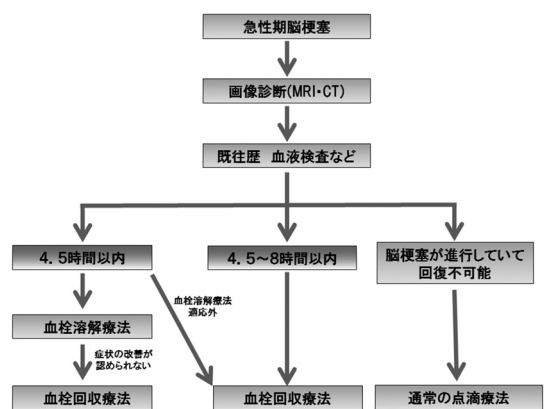
血栓回収療法後



回収された血栓

血栓回収療法の様子
左：寺井先生 右：浮田先生

理事・岡山東部脳神経外科病院
病院事業管理者 IVRセンター長
寺井 義徳医師
診療科目 脳血管内科



脳ドックのご案内

脳梗塞、クモ膜下出血、脳腫瘍等は、症状の出ないうちは健康な人と変わらない生活ができますが、ひとたび発症すると治療しても元の健康な脳には戻らないこともあります。身体に大きな障害が残ったり、言語障害、高次脳機能障害にいたることもあります。場合によっては死に至ります。

脳ドックとは、脳卒中等の危険因子の早期発見を目的とした脳の健康診断であり、MRI・MRA検査は危険因子の発見に非常に有用な検査です。

通常の人間ドックや健康診断は広く普及していますが、脳ドックを受けられる方はまだまだ少ないのが現状です。

理由として

- ①高い費用がかかる。
- ②検査や結果説明に何度も足を運ばなければならない。
- ③平日に都合の良い時間がない。

などの理由で脳ドックが多いからであると思われます。

当院はより多くの方に脳ドックを受けていただけるように

①低料金にて提供

7,700円（60歳以上の方） 11,000円(60歳未満の方)

②検査当日に専門医による診断と説明 ※平日診察時間内の場合のみ。

③夜間・休日(19時～21時)も予約で受診が可能。

(夜間・休日脳ドックの場合、後日検査結果を郵送させていただきます。

ご希望があれば専門医からの結果説明を予約制にて行っております。)

と、脳ドック検査を少しでも多くの方に気軽に受けて頂けるようにしております。

病気は全て早期発見・早期治療が大切です。

ご自身の脳の健康状態を知っていただくきっかけになれば幸いです。詳しくは当院のホームページをご覧ください。

OENC

Q 検索



医療法人 幸義会
岡山東部脳神経外科



Home

外来・診察

Outpatient

入院

Hospitalization

脳ドック

Brain Dock